



凄まじい「創造的破壊」により、 仕事も働き方もキャリアの在り方も 生まれ変わる時代が来ている！



Profile

法政大学
キャリアデザイン学部 教授
田中 研之輔先生

専門はキャリア論。一橋大学
大学院社会学研究科博士課程を経てカリフォルニア大学バークレー校などで客員研究員を務める。「プロテジャン 70歳まで第一線で働き続ける最強のキャリア資本術」(日経BP)ほか著書多数。

さて、問題です!!

アメリカの調査機関[※]によると、今後のデジタル化で産業に起こるであろう変化に気づいているビジネスパーソンは87%に上ります。では、実際にその変化に適応できるのは何%だと予測されているのでしょうか？

※Deloitte Development LLC.の調査(2019年)より。

答えは、6%。ビジネスパーソン
の多くが忍び寄る変化に気づいて
いるにもかかわらず、1000人の
うちたった6人しかその変化に適
応できない。これはとんでもない

事態です。一体、どんな時代がやっ
てくるのでしょうか。

既存の社会通念の崩壊と
技術革新で世の中は一変する

まず、これからの10年、20年に
起こるのは、「変化」よりも凄まじい
「ディスラプション(＝破壊)」です。
既存の制度や組織、社会通念が
音を立てて崩れ去る時代が来ます。
ただし、ただの「破壊」ではあり
ません。「創造的破壊」、つまり、
破壊の先にイノベーションが生まれ
ます。

例えば、次世代通信規格5Gに
よる超高速・大容量通信により、
車の自動運転や、工場機械や手術
機器の遠隔操作などが可能になる

終身雇用はもう終わり。一社で働き
続けるのはリスクでしかありません。



でしよう。技術や医療も加速度的
に進化し、これからの数年で私た
ちの生活や行動様式は大きく変わ
るはず。自動車や飛行機も日
もそう遠くないと、私は確信して
います。

一方で、「今後20年程度で、総雇
用者の約47%の仕事が自動化され
るリスクが高い」(オックスフォード
大学 マイケル・オズボーン准教
授)などと言われているように、さ
らなるデジタル化や技術革新によ

り、経済・金融の動向予測などの
専門性の高い業務でさえ既にAI
による自動化が取り入れられてい
ます。仕事の在り方そのものに創
造的破壊が起こり、ほとんどの人
が適応できなくなる。冒頭で挙げ
たデータは、そんな未来を示唆し
ているのです。

次々に起こる破壊のなかでも日
本社会を根底から揺るがすが、
次の3つの決定的な破壊です。「終
身雇用」、「年功賃金」、そして「定

安定がリスクになるなら、
どうしたらいいのよ？





人生100年時代か…
オレたちもまだ50年あるんだな

若者は敏感に社会の変化を察知して、
しなやかにキャリアを創っています。



NECが開発した空飛ぶクルマの試作機。2019年に浮上実験を成功させた。

年」。経団連の会長もトヨタの社長も終身雇用の終焉を告げていますし、政府も副(複)業を解禁しました。人生100年時代には定年という概念は消失し、生涯現役で働き続けることになるでしょう。一つの組織に定年まで身を委ねるような、いわゆる日本型の雇用は、今の高校生の世代にはまったく通用しません。もはや、一つの組織にキャリアを預ければ安泰という時代ではなく、むしろそれが賃金や

ビジネススキルの低迷というリスクになる時代になっているのです。

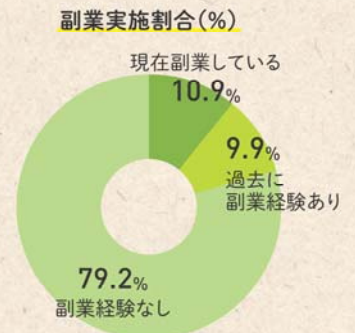
変わるキャリアの在り方。

保護者世代は価値観の更新を

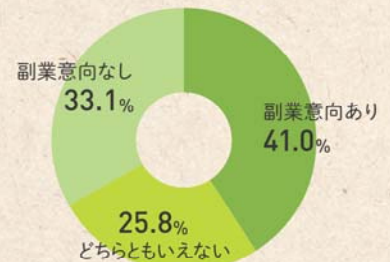
一方、破壊の後の創造として、新しいキャリアの在り方が次々と生まれています。転職、副(複)業・兼業、起業などにより、ポジティブに、主体的に、変幻自在に、自らキャリアを形成していくという在り方です。こうしてこれまでのキャリア観を破壊して新たなキャリア観を創造することを、私は「デイスラプティブ・キャリア」と呼んでいます。

かつて離職や転職にはネガティブなイメージがありました。今は大きく変わってきています。若い世代では「会社の将来が不安だから」を離職理由に挙げる率が高く、なかでも30代後半の男性では離職理由の第1位になっています(※)。人間関係の良し悪しではなく、この会社は時代の変化に適応できないだろうと判断して、より変化への適応能力の高い会社、職

図1 正社員の副業実態



現在非副業者の今後の副業意向(%)



出典：パーソル総合研究所「副業の実態・意識調査」より

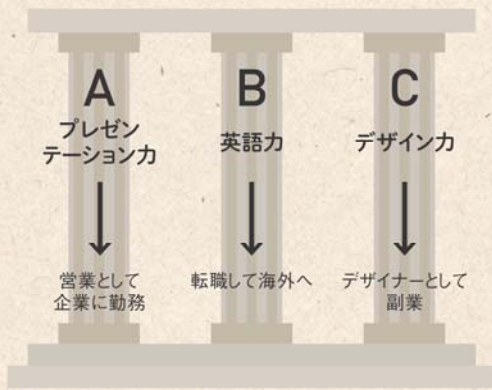
種へとキャリアアップしているのです。同じ組織に何十年もいると、ビジネスパーソンとしての生産性は下がります。日本企業がここ30年で世界のトップ企業から大きく取り残されてしまったのは、個人の力が組織の中で伸ばされず活かされず、潜在能力を開花させる場が奪われていたから。その悪習を破壊して新たなキャリアを創造するデイスラプティブ・キャリアが、若い世代を中心にどんどんと広がっているのです。

自らキャリアを形成していくために不可欠なのが、社会人になっても学び続けることです。キャリアと同時に学びもまた、新たなステージに入ったと言えるでしょう。かつては、大学を卒業したら学びは終わり、という人が大半でしたが、それでは時代の変化に取り残されてしまいます。「6%」の人材になるためには、学び、成長し続け、自分のキャリアをアップデートしていくしかないのです。

さて、既にお気づきかもしれませんが、デイスラプティブ・キャリアは私自身も含めて中高年世代にこそ求められます。若い世代は時代の変化を敏感に捉えてリスクを回避し、新たなキャリアの創造へと向かっています。危険なのは、学ぶのをやめ、新しいことに挑戦するのをやめ、自分の成長を止めてしまっている大人たちです。そういう人に限って、わが子に「人生における成功＝偏差値の高い大学に進学し、大手企業に就職する」などという旧来の価値観や固定概念を押し付け、時代に合った新しい価値観の創出やしなやかなキャリア創造を妨げてしまうのです。

※厚生労働省平成30年雇用動向調査より

図2 自分の柱になる3つの強みを育てる (例)



いろいろな顔があった方が、
生きやすくなるわよね



変化の激しい時代を生き抜くために、
「and思考」で複数の軸をもちましよう。



大事なのは、保護者が自らの価値観を更新していくこと。それが、人生100年時代を豊かに生きることにもつながるのです。

大学では3つの武器を手に、卒業したら3つの職に就く

転職や副(複)業・兼業により自らキャリアを形成していくこれからの時代は、「マルチ・アイデンティティ

イ」の時代でもあります。マルチ・アイデンティティとは、「〜である自分」を複数もっているということ。よほどの才能や一芸をもった人を除き、「自分は〜だからこれしかできない」というアイデンティティの在り方は変化に弱く、これからの時代を豊かに生きることは難しくなるでしょう。

Aとしての顔もBとしての顔もあって、Cとしても活躍している。そんな在り方のベースを作るのが、大学時代です。従来、多くの大学では専門性を二つに絞る教育を行ってきましたが、これからは複数の「強み」を磨くことが重要になります。経済を学んで、プログラミングを勉強して、音楽もやる。学部を出るまでに3つくらいの素養を身につけておけば、社会に出たときに何か1つは通用するものです。

また、転職や副(複)業・兼業により、残り2つもいかようにも活

かせます。ただし、この素養は戦略的に培う必要があります。たとえ1000万円投資しても1日では英語力を身に付けられないように、キャリアの形成には物理的に時間がかかります。だから、もし世界を舞台に活躍したいのであれば、逆算して前から英語の勉強しておく必要があるのです。

大切なのは、1つに決めずに複数の選択肢をもっておくこと、「or」ではなく「and」思考で考えることです。おすすめなのが、「やりたいことを3つ挙げる」という方法です。1つや2つには絞れなくても、「3つ」と言われると、不思議と挙げやすいものです。お子さんが進路や将来に悩んでいたなら、ぜひ「3つ挙げてみて」と声をかけてあげてください。大学では3つの武器を身に付け、卒業したら3つの職業に就く。これが、これからの時代を生き抜くための術になり、結果的には人生を豊かにするのです。

これからの時代を生きる高校生に、今のうちから意識してほしいのが、社会で今何が起きているかにアンテナを張ること、そして、「作り手」の立場で物事や世の中を見ていることです。遊園地もゲーム

もテストも、ただ享受するのではなく、それを作った人の意図に思いを馳せると、いろいろなことが見えてくるはずですよ。普段の生活や行動も、消費から生産へと意識を変えることで、感じ方も変わってくるでしょう。

↓ 保護者に求められること

まずは、保護者自身が自分の価値観を今の時代に合わせて更新すること。そして、自ら学び続け、視野を広げ、新しいことにも挑戦すること。自分と子どもの人生を並列した年表を作り、お互いが今どのステージにあるのかを客観的に捉えてみるのもおすすめです。子世代が生きる社会には課題が山積みなのは確かですが、無限の可能性があるのもまた確かです。危機感をもちつつも未来を悲観することなく、子どもと一緒に進化し続けていただきたいと思います。

大学受験は、
親子で価値観を
アップデートする
絶好の機会ですよ!

